

平佐 修

ギター・リサイタル



1988年11月21日(月)

P.M. 7 : 00 開演

於 豊平館

札幌ギター研究会

プ ロ グ ラ ム

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------------------------------|
| H・ビリャ=ロボス
(1887~1959・ブラジル) | 5つの前奏曲 |
| F・ソル
(1778~1838・スペイン) | 悲歌風幻想曲 o p . 5 9
I アンダンテ・ラルゴ
II 葬送行進曲
(平佐 修 編曲) |
| M・ジュリアーニ
(1780~1829・イタリア) | ソナタ「英雄」o p . 1 5 0 (遺作)
(平佐 修 編曲) |
| 休 憩 | |
| J・S・バッハ
(1652~1750・ドイツ) | シャコンヌ ニ短調
(BWV 1004 より) |
| F・タルレガ
(1852~1909・スペイン) | 3つのマズルカ
ト長調
ハ長調
イ短調(マリエータ) |
| A・バリオス
(1885~1944・パラグアイ) | 2つのワルツ
NO. 3 ニ短調
NO. 4 ト長調 |
| A・ルイス=ピボー
(1934~ ・スペイン) | 歌と踊り NO. 1 |

曲目解説をするには、このスペースではあまりに舌足らずにならざるを得ないかと言って何も書いていないページがあってはプログラムとして恰好が悪いかもしれない。色々と考えた末、ソルとジュリアーニの作品が何故(平佐 修 編曲)*となっているのかについて“言い訳”をしておこうと思う。

両作品とも古典期最大のギタリストであり、作曲家で、その手による作品なのだから、そのままの音で演奏するのが最良の事とは思う。然し、両作品ともそれほど多く取り上げられることがないのは、たぶん部分的に気持ちを集中しづらいところがあるせいかもしれない。かつてジュリアーニの英雄ソナタを「つまらん曲 -- 」と言った先輩がいたし、ソルの幻想曲は、他の幻想曲(多くは変奏曲のスタイル)と違い非常にまとめづらい。その理由は、全体的には何の問題もないと思えるのに、部分的に集中力を持続しづらい音や音型が突如あらわれるところにあると思う。それ等の個所は、演奏技術的にもややこしく、音楽の流れを持続させづらい。---- それを何とかするのが演奏者の仕事 --- と言われそうだが、上記の“集中しづらいところ”を「こうしたらどうだろう --- 」と試している内に自分としては大いに納得できるものになった。

オリジナルの音をご存知ない方々には何の意味もないことながら、ひょっとすると、作品の価値を引き下げているかもしれないことをおことわりしておきたい

平 佐 修

プロフィール

1948年札幌生まれ。ギターを大塚房喜氏に師事。H・ゴンザレス・モイノー、R・S・デ・ラ・マーサ、N・イエベス、L・プロウエルの各氏にレッスンを受ける。70年第13回日本ギター・コンクールに入選。72年旭川でリサイタルを開催。翌73年札幌に於いて第1回リサイタルを開催以後4回のリサイタルを行なっている。86年5月細川順三氏と「フルートとギターの夕べ」共演。

道内では札幌を中心に十数都市で、また道外では東京をはじめ仙台、八戸など数都市でリサイタルを行なっている。82年には米国ロスアンゼルス市でソロ及び自作品を含むプログラムで一週間公演。ソロ演奏をはじめ、室内楽、器楽・声楽の伴奏、協奏曲等幅広い活動を行なっている。

ギター—室内楽シリーズ予定

第2回 1989年(2月下旬)

- F・シューベルト /ギター四重奏曲
- W・マティエーカ /トリオ op. 26
- N・バガニーニ /トリオ・コンチェルタンテ

第3回 1989年(8月上旬)

- ヴァイオリンとギターのデュオ
- N・バガニーニ /デュオ・コンチェルタンテ
- J・ニン /スペイン組曲
- M・de・ファリャ /スペイン舞曲 NO. 1 その他

第4回 1989年(10月上旬)

- L・ボッケリーニ /ギター五重奏曲 NO. 7 ホ短調
- J・ハイドン /四重奏曲 二長調
- M・ジュリアーニ /セレナーデ op. 19

第5回 1989年(12月上旬)

- フルートとギターのデュオ
- C・テデスコ /ソナチネ op. 205
- A・ピアソラ /タンゴの歴史
- J・S・バッハ /ソナタ第4番 ハ長調 その他

※ 尚、会場はいずれも豊平館。曲目については変更する場合があります。